

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500360		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	岩手県奥州市水沢区真城字杉の下131番地		
自己評価作成日	平成 29 年 11 月 29 日	評価結果市町村受理日	平成30年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.1.2017.022.kani=true&amp;I.gyosyoCd=0391500360-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.1.2017.022.kani=true&amp;I.gyosyoCd=0391500360-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成29年12月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所理念に基づき職員全員でチームウエイを掲げ、毎月評価・改善し業務に取り組んでいます。</li> <li>・地域の方々とのおふれあいの場を多く持ち、グループホームを理解して頂いています。</li> <li>・定期的な歯科指導による、口腔体操や季節を取り入れたレクリエーション等で交流を楽しんでいます。</li> <li>・法人のイベントに参加し、歌謡、舞踊等を楽しんでいます。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは開設6年を経ているが、平成29年4月より株式会社から社会福祉法人に事業移行している。「出来る事の発見」や「健康維持」、「地域との架け橋」等への支援をキーワードとする理念を掲げ、本人本意を基本とした計画づくりと実践に心掛け、毎月の会議で振り返りながら評価と反省の下で支援を推し進めている。運営推進会議では「地域資源の活用」をテーマにした活発な意見交換により地域情報が得られ、また情報を発信することで理解も得られ、地域交流への広がりを見せている。また、利用者の食べる楽しみや、体力維持の継続を保持するため、歯科医の協力により口腔機能の向上に力を入れている。一方、事業所では、職員の意見・提案を尊重し介護力向上研修への参加、住環境の整備、非常時対応の改善を行うなど、意見を活かすことで職員の励みになっている。また、家族のほか、親戚や知人、友人など、多くの馴染みの方が訪問され居室でゆっくりと話せる環境をつくるなど、利用者・家族及び職員の双方が満足する取り組みを目指して推し進めている事業所である。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム えんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づいたチームウェイを掲げ、毎月自己評価し改善に取り組んでいる。利用者が孤立することなく地域の一員として、生活できるように取り組んでいる。	「私たちの理念」とする4項目の事業所理念のもと、その実践を推し進める実践目標「毎日一人ひとりが一人ひとりに挨拶」、「ご機嫌体調観察」といった5項目の「私たちのチームウェイ」により具体的に取り組み、毎月、職員会議等で評価・反省しながら対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括センターによる農作業体験に参加したり、ホームのイベント事には近隣住民の方に参加頂くよう運営委員の方に声をかけて頂いたり。移動図書、踊りのボランティア、腹話術、ミニピクニックのボランティア等、交流も図っている。	地区広報誌に事業所行事が掲載されることで、地域行事に参加したり、事業所行事に地域の方々を招いたり交流している。また、ぬくもり農園の農作業体験に参加したり、子供会の来訪による一輪車の演技披露のほか、腹話術ボランティア等、様々な機会を捉えて交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談を受けた場合、実践で積み上げた認知症の人の理解や支援方法などわかりやすくアドバイスできるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をとおしてホームの活動を理解して頂くと共に、活動にも参加して頂き委員の方に率直な意見を聞きサービスの向上に努めている。地域の情報を集める場所にもなっている。	ホームの活動状況等を報告し、それに対する意見交換や、火災訓練に参加したり、法人が経営する他施設を見学したりと活発な活動をしている。また、「地域資源の活用」をテーマに話し合いを行い委員から地域・近隣とのコミュニケーションの活発化、地域広報を活用したホームの周知、ホームを会場とした認知症講座・講演会の開催等の貴重な意見・提言が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者にも運営推進会議に参加して頂き、実情を把握して頂きご意見を頂く等協力関係を築いている。半年毎に介護相談員の方が訪問し、利用者との面談を行い、その内容を基にサービスの改善に繋げている。	運営推進会議に毎回、市職員が参加し、最新情報の提供や相談等に応じてもらうなど協力関係を築いている。また、市主催の集団指導や法人化の手続きで接点の機会が多く、取り組み状況を伝えるなど良好な関係をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県の身体拘束実態調査の実施をとおり職員全員で身体拘束の廃止に向け取り組んでいる。又、常に介助方法について話し合いを持ちながら身体拘束をしないケアを心掛けている。社内研修に参加している	法人主催の研修への参加や所内研修を実施して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒防止のための介助方法について職員間で話し合ったり、帰宅願望の方への対応として見守りチャイムを設置し、外出したときは職員が見守りし付き添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で、職員間で声掛け、ケアの方法について話し合い虐待防止に努めている。利用者一人ひとりに合った声掛けをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で権利擁護に関する制度の理解に努め、利用者が活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には入居後の生活についての不安軽減の為に、本人、家族様に要望・意見を伺い十分な説明、話し合いを行うことで理解、納得して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口及び方法について玄関に掲示し、「ご意見箱」を設置している。毎月の家族様のおたよりに意見・要望の欄を設けている。把握した意見・要望は職員会議で話し合い、サービスの向上に努めている。日頃から家族様には入居者様の状況報告を行いご意見、要望を伺えるようにしている。	毎月のお便りの中で家族の意見・要望を募ったり、家族の来所時に意見を聞いたり、また、市の介護相談員が訪問され、利用者や面談されたときの意見等があったときは、職員間で話し合い反映に努めている。なお、重度化対応への心配が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝は麦ごはん、繊維質の多い調理の工夫、毎日の手づくりヨーグルト等で自然排便を促す取組を行っている。こまめに水分補給を行うと共に体操やレクリエーション等、体を動かす機会を作っている。下剤調整により排便コントロールをしている方もいる	毎月の会議や日々のミーティング等の中で意見や提案する機会を設けており、これまで就労環境の改善や介護力向上研修への参加、住環境の整備(床やトイレドアの改修)、非常時対応の改善(拡声器の購入)等の意見が出され改善しており、意見が活かされることで、職員の励みになっている。なお、自己評価は全職員で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修会の参加や交換研修を通して向上心を持って働けるようにしている。会社としての資格所得の助成制度を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回顧客満足度向上のためのマナー研修会を行い、ケアの質の向上、各職員の意識向上を目標として日々実践している。社内研修の年間計画を立て、職員の知識、技術向上に向け取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの定例会参加や交換研修を通して情報交換や交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを始める前に、本人・家族様の不安と要望を聞かせて頂き、職員間で話し合い、本人が居やすい環境、安心に生活して頂けるような関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の話しをよく聞かせて頂き、不安を解消できるようなサービスを提供することで、安心して頂けるよう要望等に耳を傾けながら良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの対応が困難な場合が発生した時には、本人、家族の理解を得た上で他のサービスの利用を含めた対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべてやるのではなく、掃除や、洗濯干し、たたみ方、茶碗拭き、草取り、収穫等本人のできることをやって頂き、教え合ったり、励まし合ったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のおたより、広報にて利用者様の様子を伝え、家族様との絆を大切にしながら、共に本人を支える関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、知人、友人の面会時には居室でゆっくり過ごして頂くよう雰囲気作りに心がけている。馴染みの美容院に行く方、家族様と一緒に温泉、墓参りに出掛けたり、連休等自宅に帰られる方も居る。	家族のほか、親戚や知人、友人等の馴染みの方々の訪問が多く、居室にテーブルや椅子を置き、ゆっくりと話し合いができるよう配慮している。また、家族の協力を得て、美容院や買い物、外食や温泉など、馴染みの場所や人に会いに出かけている。定期的に訪問されるボランティアグループなど新しい馴染みとなっている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し、利用者様同士が関わりを持つことで、席の場所を教えたり、下膳できない方の下膳をしてくれたりと支え合える様子も見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時にはお見舞いに行き、家族様と連絡を取り合い今までの生活に近づくように相談に応じている。又他の施設に移られても、家族様他施設の方と連絡・相談を取り合い本人が望む生活が出来るように対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、言動、表情を観察し、その中で思いや希望を把握するように努めている。本人、家族様より得た情報を職員間で共有し、希望や思いに寄り添った支援ができるように努めている。利用者様の担当職員をきめ、より親密な支援の提供に努めている。	日々の暮らしの中での表情や会話から読み取り、思いや言葉を業務日誌に記入し、ミーティングで話し合いながら担当職員がファイルにまとめて記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取りを行う共に、入居前の生活歴を家族様、民生委員、ケアマネージャーから情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースで生活できるよう、業務日誌健康チェック表、申し送りを通して状態把握に努めている。月1回の職員会議で周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の職員会議、毎日の申し送りにて現状に合った支援をがきるようにしている。利用者様の状態により計画の見直しを行っている。	入居時の介護計画は、1ヵ月後に見直し、その後は半年毎に見直しをしている。担当者がモニタリングをしている。介護計画は、見直し1ヵ月前に職員会議を開いて、担当者が状況を説明し検討され、家族からの意見を聞き、管理者であるケアマネージャーが取りまとめ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人のファイルにて職員の統一したケアを心掛けている。日常生活での気付き、小さな変化等を職員間で話し合い計画の見直しを行っている。変化や注意点など見やすく、把握しやすい記録を心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	組合理容の方が訪問している。金ヶ崎のデイサービスでの慰問に参加している。食事等で食べたいものを聞き、出来るだけ要望に添って取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童センターの子供たちやボランティアの方々の訪問がある。又運営推進委員の方々や、地域の広報誌等で情報を得、いろいろな行事に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居後も継続し、家族様の協力を得ながら定期的を受診している。緊急時、家族様通院困難時は職員が対応している。必要に応じて主治医へホームでの様子、状態を伝え連携を図っている。	入居前のかかりつけ医を継続し、受診は原則家族対応としているが、緊急時や家族対応困難のときは職員対応としている。かかりつけ医が遠方の場合、家族の希望を聞いて、近くの医療機関に変更する方もいる。夜間は、法人の看護師とのオンコールで相談・助言の下で24時間対応できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状態や情報、気づきを伝え指示を受けながら、適切な受診に繋げる等早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の状況、情報の提供を行っている。又入院中は面会に行き、経過の情報を得て退院後の支援に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた指針を作成し、家族様にインフォームドコンセントを行っている。主治医や協力医の元、家族様と話し合いを持ちながら支援できるようにしている。	法人としては重度化・看取り指針を作成しているが、当ホームの現状としては対応困難である旨利用者・家族に説明し理解を得ている。重度化・終末期の対応の必要性が出てきた時点において、改めて利用者・家族と話し合いを持ち、他施設や医療機関と連携しながら支援していきたいとしている。	当ホームは開設6年経過し、組織再編・法人化2年目の事業所であるが、今後看取り等の支援が増すことが予想されるため、医療機関や訪問看護ステーションとの連携を図り、また、職員の理解を深める研修の実施等に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変、事故等に備えている。又定期的に救命救急の研修を職員全員が受講しており実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと年2回昼、夜時を想定した火災避難訓練を行っている。非常備品も準備している。地域との協力体制のもと避難場所は地区センターとなっている。近隣の方に火災通報連絡が行くようになっており協力体制を築いている。	消防署立会いの避難訓練と、通報の自主訓練を実施している。非常時の連絡網を作り、職員や住民(運営推進会議の委員2名)に通報が届くようにしている。なお、災害時の対応として、近隣に知らせるための拡声器や、ラジオ、発電機、ストーブ、カセットコンロ、食料など整備・備蓄している。火災時の自動通報システムを備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの利用者様の性格や気質を理解し、その方に合った声掛けや声の強弱等に対応している。プライバシーの保護に注意し、記録等個人情報の取り扱いに注意している。	難聴の方や内気な方、強気な方など、一人ひとりの個性や性格を見極めた声掛けに心掛けている。排泄の失敗の時や、入浴の際の羞恥心、プライドに配慮し言葉遣いにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声掛けの中で、常に本人の思いや、希望を聞き入れながら自己決定出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合った過ごし方ができるように本を置いたり、テレビだけでなく、ビデオコーナーのスペースを作ったり、居室にてのんびり過ごすなど一人一人のペースを大事に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理容では本人の希望を聞きヘアークットをしている。季節や行事には利用者様と相談しながら服装を決めている。お化粧を楽しみ、見だしなみに気をを使う等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑の野菜と一緒に収穫し、写真を撮ったり、その野菜でメニューを考え職員と一緒に食事をしている。テーブル拭き、お膳拭き等行っている。献立を掲示している。	ホーム菜園で収穫した野菜や差し入れ果菜類等でメニュー(献立を食堂に掲示)を考え調理(職員2人が調理師)している。健康保持を考え朝食には麦ご飯と手作りのヨーグルト等を出すなどしている。また、お楽しみ会や誕生会、行事食の時は、お寿司や弁当、利用者のお好みを優先するなど、食事が楽しいものとなるよう工夫している。職員は、利用者と共に食卓を囲み、一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を毎日記録している。利用者様に合った食事量、食事形態で対応している(刻み等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きされる方、介助の必要な方には一緒におこなっている。義歯使用の方は毎晩就寝前に洗浄消毒をしている。義歯、口腔内に異常が見られた場合は、家族様に報告し、協力医に相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表により個々の排泄パターンを把握するとともに仕草等を見逃さず声掛けをし、トイレでの排泄ができるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンに応じて誘導しトイレで排泄できるよう支援している。多くが排泄ケア用品を利用しているが、リハビリパンツから布パンツになった利用者もいる。夜間も殆どの利用者は誘導でトイレ排泄となっている。なお、少しでも排便を容易にするため、毎日の朝食に麦ご飯や自家製ヨーグルトを出している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は麦ごはん、繊維質の多い調理の工夫、毎日の手づくりヨーグルト等で自然排便を促す取組を行っている。こまめに水分補給を行うと共に体操やレクリエーション等、体を動かす機会を作っている。下剤調整により排便コントロールをしている方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望により温度調整、長湯歌を唄う等楽しんで入浴を行っている。拒否のある方は無理強いせず時間をずらして声掛けを行っている。入浴剤を使用し温泉気分をあげてもらっている。	入浴は、日曜日以外の毎日、午後の時間帯とし週2~3回程度としている。ぬるま湯を好む方、長湯の方夫々の好みスタイルに合わせて介助している。入浴剤を使用するときもあり、淡いピンク色の浴槽はやさしさや癒しの雰囲気醸しだされ、鼻歌したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状況を把握し体調や、希望に応じ自由に休息して頂いている。日中適度な活動を促し生活リズムを作る事で安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋を管理いつでも確認できるようにしている。服薬時に名前と薬の確認を行っている。体調に変化があった時は記録、家族様に連絡し早期対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみ、干す、モップ掛け、テーブルふき、お膳拭き等それぞれの生活歴や得なことを把握しその方らしく過ごせる役割が持てる場をつくりだせるよう努めている。誕生日会や歯科指導でのレクリエーション等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや、デイサービスでの行事に参加している。又家族様の協力で温泉やお墓まいりに泊で出かけている。	普段は事業所の周辺を散歩し菜園の見回りや外気浴で気分転換を図っている。入浴のない日曜日の午後は、外出の日として近くの産直で買い物したり、食事したり、花見や紅葉狩りなどに出かけている。なお、家族の協力を得て、温泉やお墓参り等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様より小遣を預かっている方もいる。必要な物がある時には職員が代行したり、一緒に出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や知人からの電話は取り次をしている。毎年自筆の年賀状を家族様や知人に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは吹き抜けの造りになっている。窓を開け心地良い風や温もりを感じている。各行事の写真を貼り楽しんでいただいている。「今の季節」コーナーを設け、作品を飾り、季節を感じて頂いている。又、一人一人のアルバムを置きいつでも見られる様にしている。	木のぬくもりが感じられる広い共用空間で、季節コーナーにはクリスマスツリー雪だるまが飾られている。また、家族面会や職員との対話、気の合う同士がくつろげるソファのゆったりコーナー、テレビやピアノを前面に食卓兼用のテーブルを中心に、協力歯科医との共同工作作品が要所要所に飾られホットな空間が広がっている。移動図書コーナーもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、テレビ、リクライニング椅子があり、寛げる場所となっている。座席に配慮し気の合った方が思い思いに過ごせるよう工夫している。又会話ができるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものを持ってきて頂き、できる限り自宅に近い雰囲気となるよう家族様に協力頂いている。利用者様の希望により写真、テレビ、筆筒を持ち込まれ居心地良く過ごせれるようにしている。	居室には、ベッド、洗面ユニット、クローゼット、換気扇が備付けられている。各自テレビや筆筒などを持ち込み、壁に孫や親せきなどの写真や敬老会の職員手作りのメッセージが貼られ居心地の良く空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂等は分かりやすいように表示している。安全に過ごして頂けるようクッション性のある床材を使用している。背の低い利用者様には足台を作り、床に足が付き安定感が得られるように配慮している。		